

メッセージアウトライン ローマ 3 : 27～31 「信仰の原理」

[27]「それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それはすでに取り除かれました。どういう原理によってでしょうか。行いの原理によってでしょうか。そうではなく、信仰の原理によってです。」

人間的な行い、努力では人は神の前に義と認められない。そのような行いの原理によってではなく、私たちの罪の身代わりとなって死んでくださったイエス・キリストを信じる信仰の原理によって私たちは救われる。神ご自身がこのようなすばらしい救いの道を備えてくださったのであり、私たちはそれに何もつけ加えることはできない。

[28]「人が義と認められるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。」

神の戒め、律法を守ることでできる者は誰もいない。→3:20 それゆえに神は救いの道として信仰を示してくださったのである。これがパウロの考えであり、また聖書が教えていることであった。→ハバクク2:4

[29-30]「それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人にとっても神ではないのでしょうか。確かに神は異邦人にとっても、神です。神が唯一ならばそうです。この神は、割礼のある者を信仰によって義と認めてくださるとともに、割礼のない者をも、信仰によって義と認めてくださるのです。」

真の神は当然唯一であって、天地万物を造られた神である。この神は割礼のある者、つまりユダヤ人を信仰によって義と認めてくださるとともに、割礼のない者、すなわちユダヤ人以外の人々をも信仰によって義と認めてくださるのである。

イエス・キリストを信じる信仰による神の義が示された以上、もはや何ものもそれを妨げることはできない。それはすべての信じる人々に与えられ、何の差別もない。

[31]「それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、律法を確立することになるのです。」

私たちは信仰によって救われる。しかし、それは今までの神の律法を無効にするものではない。イエスも律法の一点一画でも決してすたれることはないと言われた。→マタイ5:18 律法には神が人間に対して望んでおられること、神のみこころが示されている。しかし、人間はそれらを守って救われることはできなかつた。かえってそれらを守れない自分の罪深さを知っただけであった。しかし、それこそ神のご計画であった。→ガラテヤ3:21～24 律法は私たちをキリストへ導く養育係となった。この意味において律法は確立されるのである。

神がアブラハムにおいて与えられた契約はモーセの律法によって否定されるのではなく、むしろその律法に導かれて、イエス・キリストを信じる信仰において完成したのである。まことに神の救いのご計画は深く、すばらしい。私たちはこのようなすばらしい神の救いをなおざりにしてはならない。